

久留米大学では、受診時に患者さんから取得された診療情報等を使用して下記の研究を行っています。本研究で使用される診療情報等は他機関への提供は行いません。

なお、下記研究は久留米大学の倫理委員会にて「社会的に重要性が高い研究」等の特段の理由が認められ、研究機関長の承認を得て実施しています。当該試料・診療情報等の使用については、研究計画書に従って匿名化処理が行われており、研究対象者の氏名や住所等が特定できないよう安全管理措置を講じた取り扱いを厳守しています。本研究に関する詳しい情報をご希望でしたら問い合わせ担当者まで直接ご連絡下さい。また、本研究の成果は学会や論文等で公表される可能性があります。個人が特定される情報は一切公開しません。本研究の研究対象者に該当すると思われる方又はその代理人の方の中で試料・診療情報等が使用されることについてご了承頂けない場合は担当者にご連絡ください。なお、その申出は研究成果の公表前までの受付となりますのでご了承願います。

【研究課題名】

滲出型加齢黄斑変性に対するアフリベルセプト硝子体内投与 treat and extend 法の長期成績に関する研究

【診療情報の対象者（研究対象者）】

- 1) 受診期間：2013年1月～2014年5月の間に受診
- 2) 受診科：眼科
- 3) 対象疾患名：滲出型加齢黄斑変性と診断された方

【診療情報等の項目】

診療情報等：【病歴、診断名、年齢、性別、光干渉断層計、蛍光眼底造影写真、カラー眼底写真、視力】

【研究目的】

滲出型加齢黄斑変性とは、加齢に伴い黄斑部に脈絡膜新生血管が生じる疾患です。欧米では中途失明の原因疾患として最も一般的な疾患であり、日本を含むアジア諸国でも高齢化、生活様式の欧米化に伴い加齢黄斑変性の患者さんが増加しています。

滲出型加齢黄斑変性の脈絡膜新生血管の発生には血管内皮細胞増殖因子(VEGF)が強く関与しており、近年、抗 VEGF 薬の硝子体内投与の普及により疾患コントロールが得られるようになってきました。

2012年11月に日本でも認可された抗 VEGF 薬の一つがアフリベルセプトです。維持期のアフリベルセプトの投与方法として、患者さんごとに設定した定期投与(treat and extend)により、再発自体を防ぐ投与方法が主に行われています。その短期成績としては、視力の改善・維持の有効性が報告されていますが、日本での長期成績の報告はまだほとんどなされていません。長期成績を明らかにすることは、加齢黄斑変性の患者さんの視力を長年に維持するために重要であると考えます。

滲出型加齢黄斑変性でアフリベルセプト硝子体内投与 treat and extend 法を施行した患者さんを対象として、視力予後、投与回数、投与間隔などの長期成績について調査します。

【研究（利用）期間】久留米大学倫理委員会承認後から2022年8月20日まで

【利益相反に関する事項】本研究は特定企業からの資金援助はないため利益相反は発生しません

【問い合わせ先】

研究責任者・問い合わせ担当者：久留米大学医学部眼科講座 助教 石橋 弘基

〒830-0011 福岡県久留米市旭町 67

研究番号 17107

TEL：(0942)-31-7574

FAX：(0942)-37-0324